

2018.3.13(火)

▶ 4.8(日)

本館 特別1室

東京国立博物館 コレクションの 保存と修理

本特集は今年で18回目を迎えました。このリーフレットでは、今回の展示作品の中から「大燈籠」「年中行事図屏風」の本格修理と、当館内で行なわれている対症修理についてご紹介します。

作品ごとの素材や技法、状態に適した修理を行ない、未来へと文化財を伝えるための保存活動をご覧いただき、一味違う展示をお楽しみいただければ幸いです。

大燈籠

だいとうろう [G-4218]

四代清水六兵衛作 明治41年(1908)

陶製 総高約315cm

修理 文化財修復工房明舎

※飯田貞子氏からの寄付金を本修理に当てさせていただきました。



地図提供：美術出版社デザインセンター

※本年の春の庭園開放は3月13日(火)~5月20日(日)です。

京都で代々続く陶家・清水六兵衛家の四代による作品。四代が61歳のときで作、昭和13年(1938)に五代によって寄贈された。陶製の燈籠という、器にとどまらない四代の作風の幅の広さを伝えるものとして、大変貴重な作例である。

火袋部(中央の窓のついた部位)に、焼成時または長年の重量負担で生じた大きな亀裂があり、過去に修理が行なわれている。旧修理部分や接合部材は経年で脆くなったため、今回の修理で除去し、亀裂に樹脂を充填し補強した。下部に掛かる重量負担を軽減させるため、燈籠内側の空洞部にステンレス製の芯棒を入れて各部位を固定した。

修理前

燈籠全体にひびがみられ、火袋部には大きな亀裂を修理した痕がみられた。

一番上の宝珠がずれていた。倒壊のおそれがあるため、修理をして構造強化する必要があった。



解体



燈籠の重量は全体で1tを超えるため、重機で慎重に解体作業を行なった。

クリーニング



旧修理部材を除去し、付着した埃や汚れを洗浄した。

充填・補彩



亀裂部分に合成樹脂の接着剤などを用いて接合・強化し、補彩を行なった。

設置

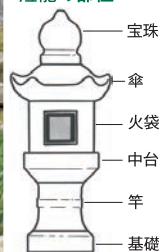


燈籠内側の空洞部に芯棒を入れ構造を強化し、重機を用いて設置を行なった。

修理後



燈籠の部位



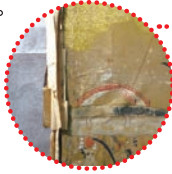
年中行事図屏風

ねんちゅうぎょうじずびょうぶ 【A-12439】

狩野益信(洞雲)筆 江戸時代・17世紀
6曲1隻 紙本金地着色
縦154.6cm 横386.0cm
修理 東京国立博物館 保存修復課

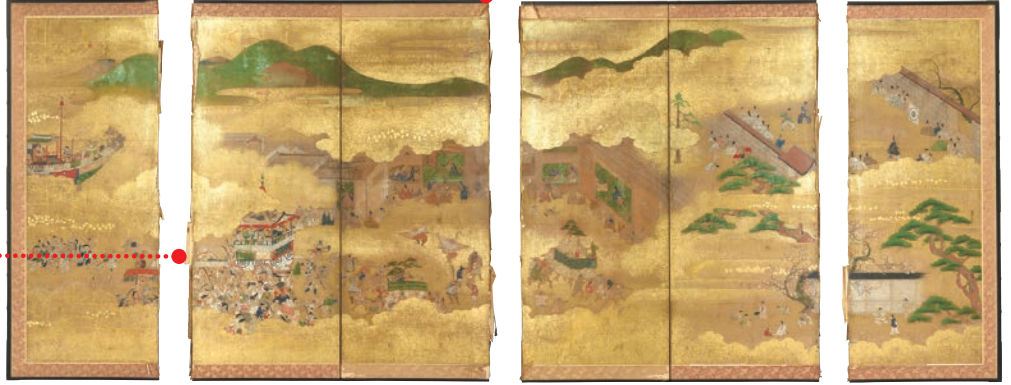
※みずほ銀行からの寄付金を本修理の一部に
当てさせていただきました。

各扇を繋ぐ尾背が断裂し、経年による糊の接着力低下のため、本紙が下地に十分に接着しておらず、安全な取り扱いが困難であった。今回の修理では屏風装を解体し、クリーニング、絵具層の接着強化、裏打紙の取り替えを行なった。本紙の処置後は新調した骨下地に張り込み、屏風装に仕立てた。



修理前

尾背が断裂し、糊の接着力低下による紙の浮き、絵具層の剥離・剥落がみられ、取り扱いが困難であった。



解体・クリーニング



剥落のおそれがある箇所に剥落止めを施し、装飾金具、縁木を外し、1扇ごとに切り離した。その後、旧補修紙、裏打紙を除去した。

剥落止め・補彩



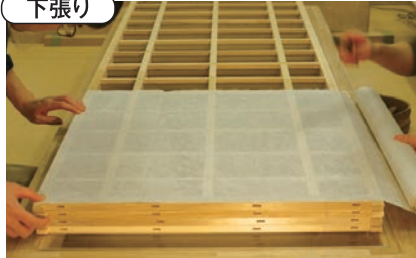
絵具の状態を確認し、再度の剥落止めを行ない、補填箇所を補彩した。

補紙



欠失箇所には、本紙と同質の繊維の紙を用いて、裏面から補填し、再び裏打ちを行なった。

下張り



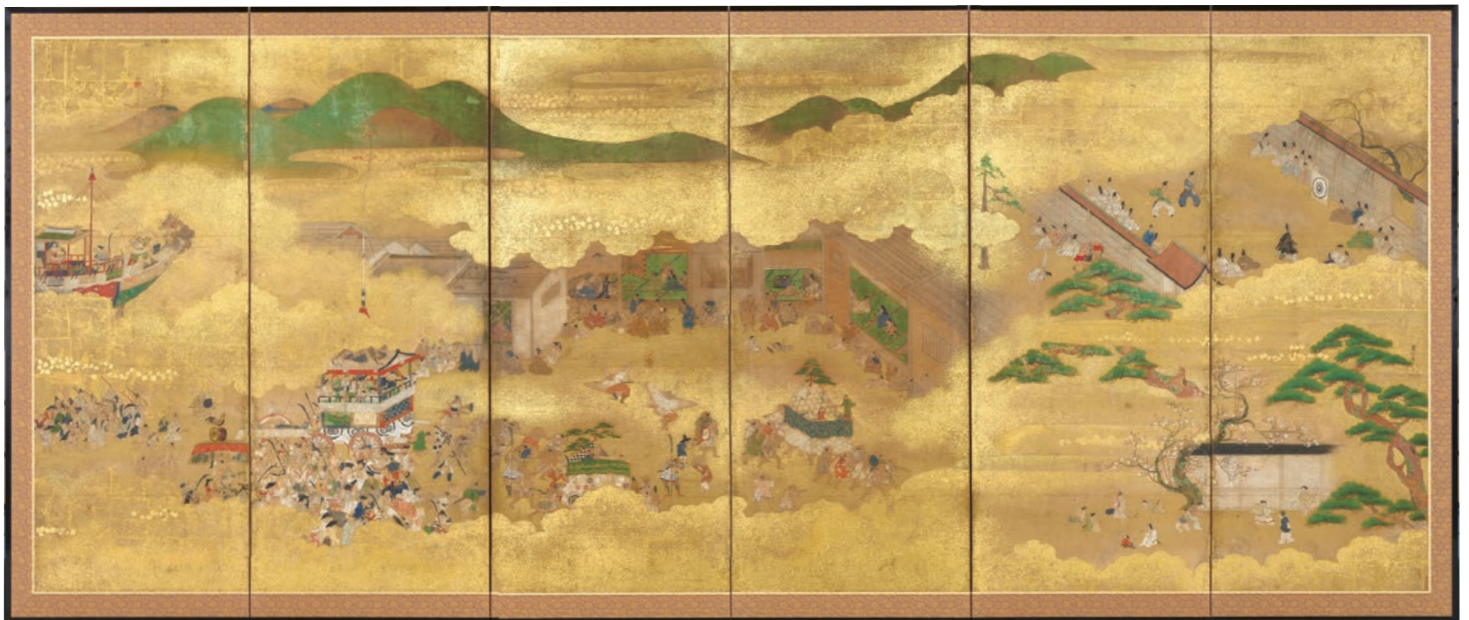
新調した骨下地に下張りを施した。

仕立て



新調した骨下地に本紙を張り込んだあと、表面装裂、縁木、金具などを取り付けて屏風装に仕立てた。

修理後



保存と修理の現場をのぞいてみましょう！

対症修理

東京国立博物館において、文化財の修理は安全に文化財を展示・活用していくための大切な仕事です。解体作業など大がかりな工程を含み、外部の専門技術者へ委託し、1~2年をかけて行なう大規模な処置を「本格修理」、展示・保存などの作業にあわせ、館内で応急もしくは対症的に行なう処置を「対症修理（応急修理）」と呼び分けています。対症修理はさまざまな状態の文化財にあわせ、必用最小限の処置をし、展示や保存のために文化財の安全を確保するもので、年間約1,000件の修理を行なっています。日々のきめ細やかな処置で、作品にとって負担の大きい本格修理をできるだけ先延ばしにし、安全な状態で作品を活用することができます。

小さなメンテナンスの積み重ねがとても大切なのね

ひとつひとつ修理の方法が違うんだほ〜!



よりよく文化財が鑑賞できるように — クリーニング、フラットニング、補彩



漆工品のクリーニング

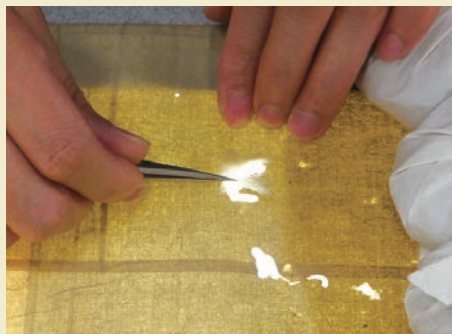


掛軸のフラットニング（巻くせの直し）



油画の補彩

文化財を安全に取り扱えるように — 補紙、剥落止め、接着固定



虫損による紙の穴の補紙



革の上に描かれた彩色の剥落止め



仏像の外れた台座部材の接着

文化財を安定した状態で保存活用するために — 展示具や保管箱などの製作



状態の悪い作品に、直接触れずに展示・保管ができる箱の製作



重要な洋書を保管するため、安全な材料を使用し、本の形に合わせた箱を製作

出品リスト

No.	名称	員数	作者/出土/伝来等	時代	列品番号	備考
1	年中行事図屏風	6曲1隻	狩野益信(洞雲)筆	江戸時代・17世紀	A-12439	諏訪多辰治氏寄贈
2	アイヌ風俗図	2面	平沢屏山筆	江戸時代・19世紀	A-9880	山高信離氏寄贈
3	柿本人麻呂像	1幅		室町時代・15世紀	A-12435	
4	漆塗籠棺残片	一括	大阪府河南町平石 塚廻古墳出土	古墳(飛鳥)時代・7世紀	J-39374	大阪・平石塚廻古墳調査会寄贈
5	蟹目釘	1個	岡山県倉敷市 箭田大塚古墳出土	古墳時代・6世紀	J-9869	
6	刀子	1個	岡山県津山市新野山形字水原 黒姫塚古墳出土	古墳時代・6世紀	J-34391	長船岸平氏寄贈
7	刀子	1個	岡山県津山市新野山形字水原 黒姫塚古墳出土	古墳時代・6世紀	J-34392	長船岸平氏寄贈
8	盆	1枚	北海道アイヌ	19世紀	K-25855	ウィーン万国博覧会事務局引継
9	紫地花鳥連珠七宝繫文錦天蓋垂飾残欠	1枚	東大寺正倉院伝来	奈良時代・8世紀	I-337-174	
10	淡縹地葡萄唐草文綾天蓋垂飾残欠	1枚	東大寺正倉院伝来	奈良時代・8世紀	I-337-175	
11	赤地花卉文臈纈平絹	1枚	東大寺正倉院伝来	奈良時代・8世紀	I-337-37	
12	深鉢形土器	1個	東京都あきる野市菅生字中出土	縄文時代(中期)・前3000~前2000年	J-37834	塩野半十郎氏寄贈
13	人面付壺形土器	1個	茨城県筑西市 女方遺跡出土	弥生時代(中期)・前2~前1世紀	J-34947	田中國男氏寄贈
14	享保雛	1対		江戸時代・18世紀	I-3613	
15	潤塗千段巻塗打刀(刀装)	1口		江戸時代・19世紀	F-19539-2	
16	小忌衣 浅葱天鷲絨地菊水模様	1領		江戸時代・19世紀	I-2061	高木キヨウ氏寄贈
17	大燈籠	1基	四代清水六兵衛作	明治41年(1908)	G-4218	清水六兵衛氏寄贈 屋外展示(九条館前)

関連事業 — ギャラリートーク

最新情報はウェブサイトで <http://www.tnm.jp/>

トーチカの修理事業 — これまでの歩みと課題 —

日時: 3月13日(火) 14:00~14:30

場所: 本館特別1室

講師: 土屋裕子(保存修復室長)

東京国立博物館で行なっている文化財修理の活動について紹介し、問題点や課題についても触れ、将来へ向けての目標についてお話しします。

正倉院染織品における修理仕様

日時: 3月20日(火) 14:00~14:30

場所: 本館特別1室

講師: 沢田むつ代(客員研究員)

東京国立博物館では法隆寺と正倉院伝来の染織品を所蔵しています。それぞれに損傷状態等に応じた修理方法を採用しているので、それらの修理仕様をお話しします。

X線CT装置の保存修理への活用

日時: 3月27日(火) 14:00~14:30

場所: 本館地下 みどりのライオン(教育スペース)

講師: 宮田将寛(調査分析室アソシエイトフェロー)

東京国立博物館のX線CT装置の活用方法をご紹介します。通常ではみることのできない文化財の内部を調査し、保存・修理に貢献しています。

立体作品修理の現場から

日時: 4月3日(火) 14:00~14:30

場所: 本館特別1室

講師: 野中昭美(保存修復室アソシエイトフェロー)

作品の状態や展示活用にあわせた処置方法の違いなど、修理の難しさやおもしろさについて、展示作品をみながらお話しします。

みなさん
ぜひ聞きに来て
くださいね

